市民参加をまちづくり委員会を進める

昨今、多くの自治体で市民参加によるまちづくりが重要視されていますが、なぜ今市民参加が必要とされているのでしょうか。市には、選挙で選ばれた市長や議員がいて、皆さんの負託を受けて市政を進めています。しかし、より多くの皆さんの意見を市政に反映させるには、市民参加によって皆さんの知識や経験をまちづくりに生かすことが重要です。

清瀬市では、平成14年に多摩地区で初めて、市民参画・協働のまちづくりを仕組みとして保障する「清瀬市まちづくり基本条例」を制定して、市民と行政の協働によるまちづくりを進めています。今回は、この実現に大きな役割を担っている「まちづくり委員会」をご紹介します。

延べ90人の方々が委員会に参加

まちづくり委員会（以下委員会という）は、「まちづくり基本条例」が施行されたことにより、平成15年4月に設置されました。

この委員会は多くの市民の皆さんに、まちづくりや市政をより身近に感じてもらうことを目的としていることから、任期を2年とし、20人のうち10人が毎年改選され、再任はできないようになっています。このため、現在まで延べ90人の方々がこの委員会に参加しています。

委員会は毎月1回、会議を開き、市民の皆さんからの市政への提案を実現できるかを含めて審議します。その後、どういう形で行うのが望ましいかをまとめて、市長に提言します。（右図参照）

市長への提言の流れ

まちづくりのシンフォニー

清瀬市は、今年市制施行40周年を迎えておりますが、清瀬市の特色ある学校教育事業として、「読書の清瀬」に取り組むこととしました。

これらのことに共鳴いただいてお二人の市民の方から児童図書購入のために多額のご寄付を頂きました。

そのお一人は日野清徳（ニッセイロールペーパー㈱社長）さんからであります。

この「読書の清瀬」は、子どもたちに読ませたい本を、市内小・中学校の教員などが作成委員となって厳選した推薦図書を紹介する冊子「清瀬の100冊」を発行すること、朝の始業前の時間を活用した読書活動、読書活動指導員の配置などにより読書好きの子どもたちを増やすことなどです。

日野さんは、この「清瀬の100冊」を購入し各学校に置きたい。その費用、2千800冊分、600万円を寄付したいとの申し出であります。

もうお一人の方は、長谷川洋さんからであります。長谷川さんは、㈱スタジオディーンの代表者としてアニメーションの企画制作に取り組んでこられ、次々とヒットさせてきました。ところがこの5月に、奥様が病気で亡くなられたことから、奥様のご遺志により、幼児の子どもたちに図書を寄贈したいとのお話を頂きました。清瀬市としては清瀬けやきホールに200㎡の児童図書館を併設しておりますので、そこに「長谷川みち子文庫」を設けたいお話を申し上げました。外国語の絵本シリーズフォセットや日本の名作絵本・紙芝居など約2千700冊（500万円の寄付を頂きました）を用意することに致しました。日野様と長谷川様から子どもたちにとって願ってもない贈りものになると思います。

清瀬市長　星野　繁

現委員長にインタビュー

六小プロジェクトXなど多くの地域活動に参加されている大森さん

今年の6月から第8期委員長になられた大森靖史さんにお話を伺いました。

広（秘書広報課）　応募のきっかけを教えてください。

委（委員長）　当時の委員長から一昨年のまちづくりフォーラム（委員会の活動報告会）に参加してみないかと誘われたことがきっかけでした。

広　大森さん自身はこのような活動に興味はあったのですか。

委　地域の活動には興味があったのですが、昔は土日も休みがないような仕事をしていたため、参加できないでいました。

私自身、5年前に大きな病気をして、時間ができたのも参加した大きな理由の一つです。他の皆さんも地域の活動に参加したいと思っても、時間がないから参加できないという方が多いのではないでしょうか。

広　委員会の雰囲気を聞かせてください。

委　学生も含めさまざまな年代の方々が参加していますので、普段は出会えないような人に出会えていろんな話ができるのが楽しいですね。

またそれによっていろいろな知識も得られます。

広　毎年、委員会から市長に提言がされていますが、その状況を聞かせてください。

委　この委員会では、これまで多くの提言（下表を参照）がされていますが、昨年は、ケヤキロードギャラリーのPRと自転車の交通ルールの普及を市長に提言しました。

特に、自転車の交通ルールは、私自身も病気を患った後、思うように歩けない状況のなか怖い思いを何度もしたので、強い思い入れがありました。

市民からの提案を受けて、委員会ではまず自転車のルール、マナーを学ぶことから始めました。警察署の職員にも来てもらい、現在の交通事情を聞いたり、関連資料を集めて勉強会を開き、皆で学んでいきました。

自分も含めて、子どもやお年寄り、主婦それぞれの立場から交通上の危険性を考え、一つの案をまとめるまでには、約2か月の月日を要しましたが、完成した時には充実感で満たされました。

広　最後にこの委員会を通して、清瀬がどのようなまちになればいいと思いますか。

委　地域皆で助け合って、安心・安全に暮らせるようなまちになってほしいですね。何をやっても自分には関係ないという思いがまちから無くなってほしいです。

市民の方々が「まちづくり委員会に何か提案を出せるらしいよ」と知ってもらい、さいなことでも地域で話して、提案してもらえるといいですね。いろいろな意見が寄せられることで、清瀬がより良いまちになればと思います。

広　今日は、ありがとうございました。

平成19年度までの主な提言

提言	提言年度	実施状況
みどりの週（月）間キャンペーンの実施	H19	実施に向けて検討中
南口ふれあい通り商店街の活性化	H18	商店街通りの道路整備、お祭りを開催
7千トンに7万人のチャレンジ	H17	新たな指定袋の作成、ごみ収集回数の削減
きよせ街かどフラワーコンテスト	〃	フラワーコンテストに『街かどガーデニング部門』を新設
清瀬市のシンボルマークに愛称をつける	H16	一般公募で募集を行い、『キラリ』に決定
自然保護レンジャー制度の制定	〃	『清瀬市自然保護レンジャー設置要綱』を制定
ゴミの減量化に関するマイバッグの制定	H15	マイバッグに新たなデザイン・色を採用
宅地開発に関する条例の制定	〃	『清瀬市住環境の整備に関する条例』を制定

まちづくりに参加してみませんか

今回インタビューした大森さんは、緑が多く自然豊かな清瀬が好きだという思いから、委員会に参加しているそうです。このような思いをもった多くの方々によって、清瀬のまちは支えられています。

市では、まちづくり委員会の他にも市民参加をサポートする市民活動センター（上清戸二丁目）もありますので、気軽に参加してみてはいかがでしょうか。

黄色が目印の「まちづくり提案箱」

また、仕事や家庭の事情などにより、このような委員会に参加することができない方は、市役所や各センターなどにあるまちづくり提案箱（写真左）に意見を寄せるのも、市民参加の一歩です。この機会に新たな参加の一歩を踏み出してはいかがでしょうか。

問合せ　企画課市民協働係

今年はニンジンのキャラクターを募集

清瀬市はニンジンの生産量・作付面積とも都内第1位のニンジンのまちです。昨年の「にんじんアイデアグッズコンテスト」では、市内外から多くの素晴らしい作品が寄せられました。

今年は「にんじんキャラクターコンテスト」を実施します。清瀬のまちが、更に明るいまちとなるようなキャラクターを募集します。

対象　全国どなたでも

内容　ニンジンをイメージした若しくは主役とした創造性にあふれ、長く愛されるキャラクター（作品はオリジナルで未発表、かつ応募者が著作権を有するものに限る）

※応募作品は返却しません。入賞作品の権利は清瀬商工会に帰属します。

申込み　9月20日（消印有効）までに、清瀬商工会・同会ホームページにある応募用紙に必要事項を記入し、直接または郵送で〒204―0022松山2―6―23　清瀬商工会内清瀬にんじんキャラクターコンテスト実行委員会☎491・6648へ

日曜・夜間納税窓口を開設

納税にご協力を

■夜間納税・納税相談
日時　8月24日(火)～26日(木)午後8時まで

■日曜納税・納税相談
日時　8月29日(日)午前9時～午後4時

場所　いずれも市役所税務課窓口

問合せ　税務課収納係